



LOGICROSS
COMMUNICATION



LOGICROSS
COMMUNICATION

CROSS
X-DRIVE
APPEAL BOOK

LOGICROSS-Communication inc.



[HTTP://WWW.LOGICROSS.COM/](http://www.logicross.com/)

CROSS

X-DRIVE

戦略構想から現場実行まで一気通貫で“駆動”するDXプロジェクト推進

- 「デジタルの力を駆使した業務革新が現場に浸透するまで邁進する」DRIVEの役割を担う -



DRIVE

D

Digital

アナログからデジタルへの変遷を支援

R

Re-Engineering

業務プロセスを抜本的に見直すことで
全社業務の再構築を果たす

I

Innovation

事業へ新たな仕組や技術、考え方を取り
入れ企業に変革をもたらす

V

Value-chain

製品やサービスが顧客に届くまでのプ
ロセスへの付加価値を提供

E

Execution

構築した戦略施策を最終的な成果に結
実させるための実行支援

事業改革DXコンサルティング

先見性あるクライアントに対して、デジタイゼーションの力を提供し更なる企業変革を支援する



事業バリューチェーン改革 コンサルティング

- マーケットにおける競争優位性の確立
- 付加価値資源の集中・活用による事業効率の向上
- 部門横断連携網の構築



物流改革コンサルティング

- 事業構造の転換に適応した物流構造の変革
- 物流損益分岐に沿ったアウトソーシングモデル設計
- 情報と物流の高度化連携に応じた物流データ基盤構築



CLO支援コンサルティング

- CLO代行によるサプライチェーン戦略策定・物流改革の社内推進
- PMO代行によるプロジェクト型業務の浸透・物流ナレッジ蓄積



グローバルサプライチェーン改革 コンサルティング

- グローバル拠点戦略の設計
- グローバルSCM管理スキームの構築
- グローバル拠点オペレーションプロセスの設計



デジタル戦略構想策定

- デジタルEA（エンタープライズ・アーキテクチャ）の戦略モデル策定
- 市場価値創出・変化対応力に適したデジタル基盤構築（業務プロセス変革×IT・デジタル化）

LCCコンサルティングの特徴・強み

1

**実行して
効果創出
するまでご支援**

- 荷主企業及び3PLにおけるコンサル及び実務経験を通じて、改善仮説の企画立案ならびに改善実行力に自負あり。
- クライアント様にとって実現性の高いロジスティクス戦略の方向性を設計すると共に、効果創出に不可欠なオペレーション改革の実行までHands-On型でのご支援が可能。

2

**SCM/
ロジスティクス
戦略策定への特化**

- 弊社はSCM/ロジスティクス領域のBPRに特化して経験を積んでおり、豊富なノウハウを有する。
- 当社に在籍する業界知見者をPJに配属させることにより、クライアント様の現状を客観的に整理し、また経営陣の志向する成長戦略を十分に理解・把握した上で、最適かつ実現可能な成長戦略を立案することが可能。

3

**科学的・定量的
な技術**

- 物流特有のキャパシティ特性データベースを有する。
- 統計解析や経営分析に強いメンバーによる定量分析技術により、納得感のあるご支援が可能。

4

**荷主／中立の
立場での
運営支援**

- コンサルティングサービスに留まらず、現場オペレーション業務の管理受託事業を展開し、センター長・管理者の現場管理人材、全国の実物流会社とのネットワーク、物流管理システムを有する。
- ノンアセット型の独立コンサルであり、荷主あるいは中立的な立場での受託ポリシーを徹底することにより、継続的な現場改善を推進。

企業の競争力強化、コスト削減、新たな価値創造を目的として、製品やサービスが顧客に届くまでのプロセス全体（研究開発、調達、製造、販売、アフターサービスなど）をデータ連携視点で最適化・再構築する

お困りごと・背景

- 部署間の連携不足を起因とした販売機会の損失・コスト構造の不透明性・市場変化への対応遅れ
- マーケティング企画がサプライチェーンと非連動
製造側は需要情報が枯渇する中で見込み増産に踏み切らなければならず結果として過剰在庫におちいりやすい

目指すゴール

データ連携基盤の構築

1. 競争優位性の確立と収益最大化

付加価値を生み出している活動である自社の強みをさらに伸ばし、競合他社には真似できない独自の優位性を確立

2. 経営効率の向上とコスト削減

非効率なプロセス（ボトルネック）を特定し、改善・廃止する一方で、付加価値の創出に貢献度の高い活動に重点的に資源を集中させることで事業全体の効率性を高める

3. 顧客価値の向上と市場への迅速な対応

市場変化への適応：バリューチェーン全体の可視性を高め、サプライチェーンの強化や部門横断的な連携を促進

プロジェクトの取組みステップ



事業のマーケットシェアを拡大するためには、顧客と直接販売できるポジショニングと
サプライチェーン全体を自社管理化へ置くことが肝要となる

目指すべき事業戦略

事業バリューチェーン改革のシナリオ

事業成長機会のポテンシャル

同業他社との協働化により、業界内での
サプライチェーンのスケールメリットを享受

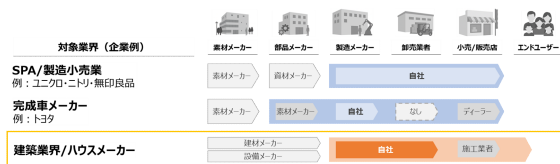


事業の水平拡張化

スケールメリットによるコストコントロール力を
高める

競争優位性の更なる強化

川上～川下までの独自サプライチェーンの
構築により、業界内での競争優位性を確保



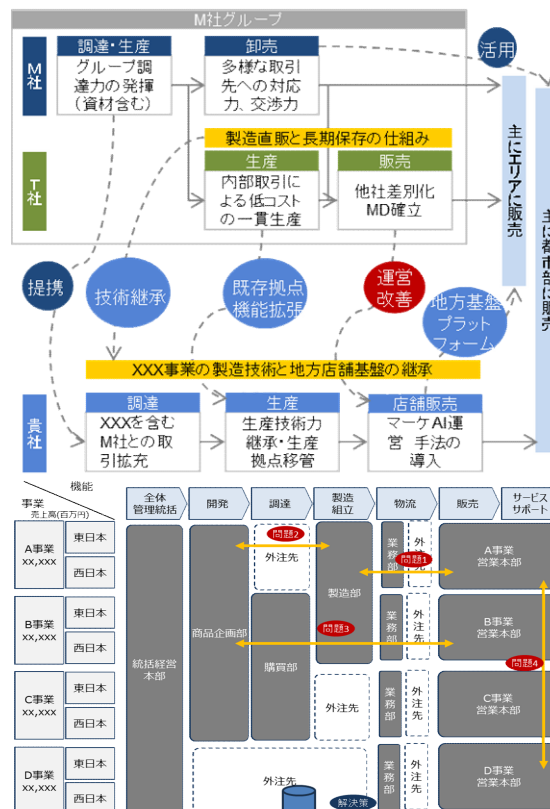
事業の垂直統合化

市場のプライス決定権を高める

改革シナリオ例 1

食品製造小売業

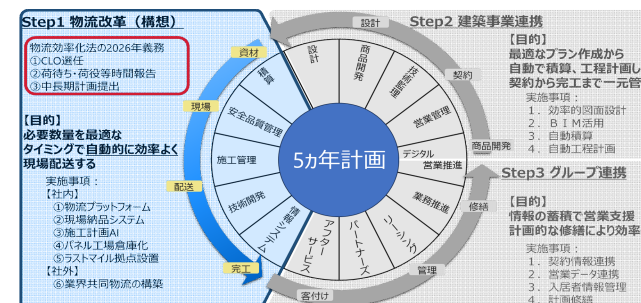
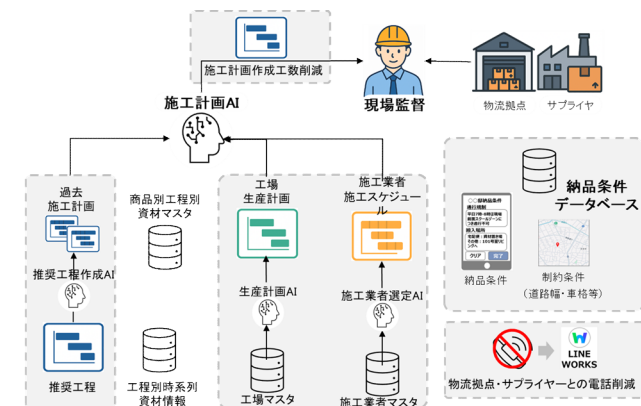
地方店舗基盤に確立された製造技術を継承し、既存拠点機能を拡張させることにより、次なる主力製品を新規ブランドとして展開



改革シナリオ 2

大手ハウスメーカー

工程管理AIと現場納品が連動した仕組みへの刷新により、
現場監督の人数が減少する将来においても建築総棟数を
維持できる事業スキームを確立



物流改革は、拠点輸配送ネットワーク、在庫配置、ウェアハウジング（倉庫内作業）、輸配送スキームに関する戦略に大別

目指すべきゴール

物流環境の変化

残業規制強化や労働人口減少に備えた、現場作業の抜本的な効率改善による生産性向上に連動した変革



マーケットイン型や直販モデルへの事業構造の転換に応じた物流構造の変革

製造業

製造
メーカー

D to C



情報と物流の更なる高度化連携に応じた物流データ基盤の改革

卸売業



情物の深化



販売チャネルの変更に伴う事業構造の転換に応じた物流構造改革

小売業



オムニチャネル化

自動化



物流改革のフレームワーク

SCM/ロジスティクス改革

ロジスティクス
ネットワーク戦略

物流拠点再構築

在庫配置戦略

適正在庫方針
生産計画／仕入調達

ウェアハウジング
(倉庫) 戦略

庫内業務プロセス
マテハン・ロボティクス

輸配送スキーム

輸配送スキーム・
運賃モデル

SCM/
ロジスティクス
活動基盤

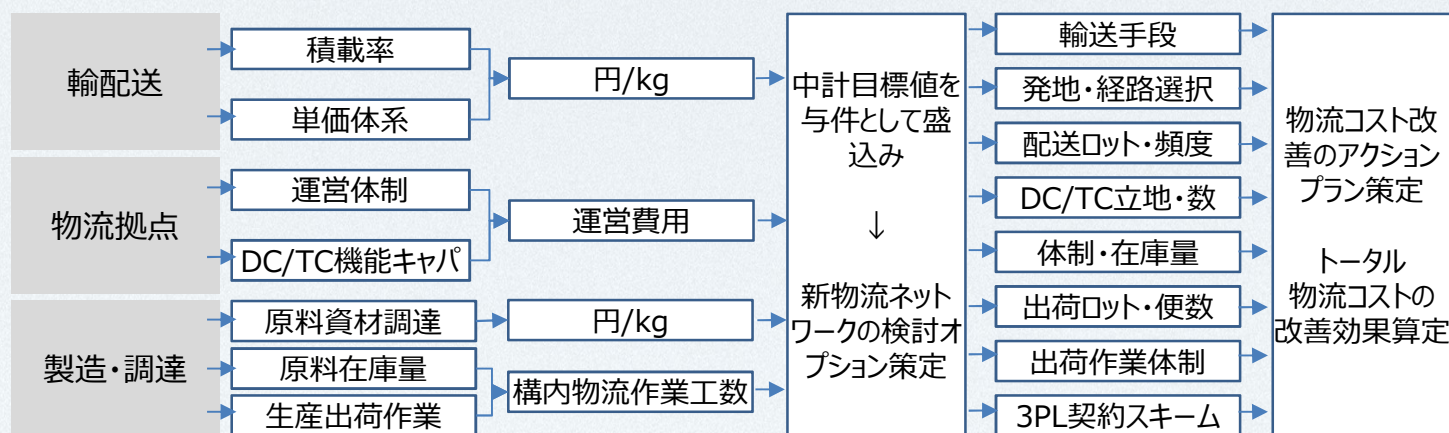
本社・子会社のSCM/物流組織設計

アウトソーシング

情報システム構築

SCM/物流KPIマネジメント

物流改革プロジェクトのステップ



事業戦略に応じた物流構造変革を、構想策定～実行立上げ・定着まで伴走支援することにより、
物流コスト最適化・物流効率改善・物流データ基盤構築運用を実現

物流改革のねらい

物流コスト最適化

- 顧客サービス面と物流コスト面双方の効率性向上に向け、物流キャパシティ・物流プランニングの管理レベルの底上げを図る
- 物流パートナーとの委託モデルにて、コスト適正化および改善推進の強化を図る

物流効率改善・サービス強化の実現

- AIによる高精度な需要予測と、サプライヤーとの情報共有を強化することで必要な材料を必要なタイミングに調達するJIT納品が可能となり、リードタイムの短縮と過剰在庫を削減

物流データ基盤構築とトレーサビリティの確立

- Iotセンサーやクラウドシステムを導入し、原材料の調達から最終製品の納品までを一貫してリアルタイムで可視化
- 輸配送中の貨物追跡、製品品質データ、リードタイムの把握&更新と不具合発生時の原因特定と予実更新を徹底

物流改革テーマ

拠点/輸配送ネットワーク再編

事業戦略に基づいた拠点配置へ再編し、継続性のある輸配送ネットワーク網を構築し、リードタイム短縮とコスト削減を実現



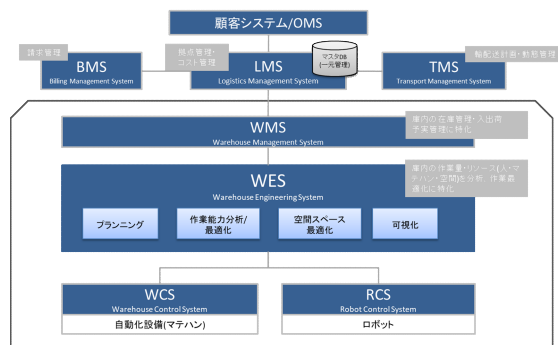
物流効率DX化

AIやIoTを活用した物流の効率化と可視化の実現に向け、データに基づいた持続可能で柔軟な物流スキームを構築



物流システム構築

サプライチェーンの自動化の推進として、在庫管理から輸配送までを一元管理・リソース最適配置できる物流システムを構築



物流機能/委託契約モデル構築

自社でコスト構造の透明化と改善を徹底させ、変化に対応できる柔軟な物流体制と高い専門性を確立することにより、持続的な企業成長を支える物流機能を構築



サプライチェーンロジスティクスとして捉えるべき物流問題・課題に対し、社内ステークホルダーを巻き込みながら経営と実務の双視点からのアプローチで事態打開を図る先導役(CLO)を支援するサービス

想定課題

人材不足の深刻化・コスト上昇

2024年問題

高齢化

人手不足

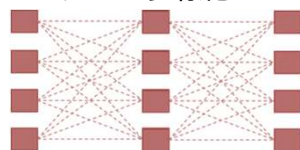


インフレ・円安の経済環境、法規制強化、高齢化に伴う物流人材不足の深刻化に伴い、物流コストが年々増加

“物流”だけでの問題解決は困難

サプライチェーンコントロールの複雑化

フローの多様化



昨今、販売チャネル・調達ネットワークが多様化した影響で生産・販売・在庫のコストコントロール難易度が上昇

CLO支援によるねらい

機能種別	主な役割	
サプライチェーン戦略	SCM	中長期SC戦略の策定
		SC組織体制の構築・見直し
		生販在(PSI)施策の策定・推進
物流戦略	構想/予算策定	中長期物流戦略の策定
		物流組織体制の構築・見直し
		物流予算の予実管理
	企画	物流改革プランの策定 改善施策のプロジェクト化推進
物流管理	物流コスト効率・サービスレベル向上	KPI設計・運用管理
		物流キャパシティ管理
		委託先契約管理
		現場業務監視
		法規制管理・CO2対応
物流オペレーション	物流実務	現場運用業務設計
		事務業務
		現場運営管理
		庫内・輸配送作業

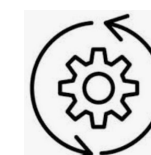
実現したいこと

ロジスティクス人材の確保

人材抜擢

環境整備

全社最適化

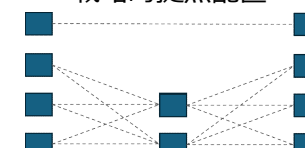


物流変革を主導する人材がナレッジを蓄積しながら継続的に全社最適を推進していくための環境を整備

“サプライチェーン”課題に活路

サプライチェーン戦略管理

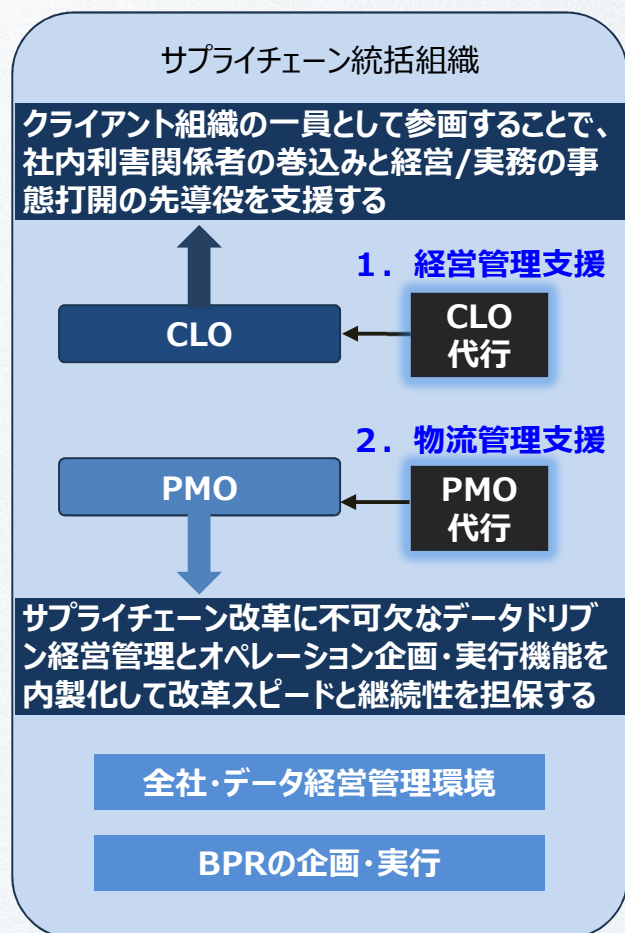
戦略的拠点配置



SCM中長期ビジョンの実現に向けてロジスティクス変革中心とした投資を実現

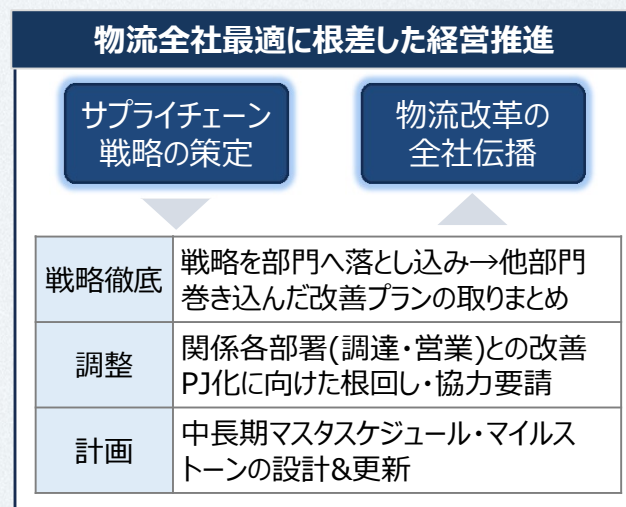
CLO支援者はCLOに代わってサプライチェーン戦略を策定から実行部署への落とし込みまでを実施
PMO支援者は顧客をリードしながら、プロジェクト型業務を浸透させることで改善ナレッジを根付かせる

支援パターン



1. 経営管理支援

CLO代行

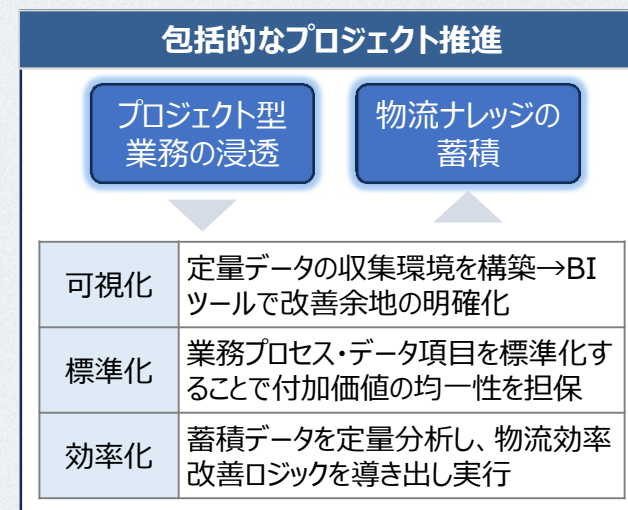


支援内容



2. 物流管理支援

PMO代行



支援内容



グローバルサプライチェーンにおける供給ネットワークの最適化に向けて
戦略的アプローチを施すことで、最適リソース配置とコスト管理スキームの再構築に取り組む

お困りごと・背景

グローバルサプライチェーン戦略

供給ネットワーク、最適リソース配置、必要キャパシティ、管理スキームの最適化に向けた取り組みが求められている

現状のオペレーション課題

サプライチェーン管理レベル	グローバルコストがシステムで一元管理できておらず、将来の限界利益管理の精度が粗い
定量的な計画	将来の事業規模に応じたキャパシティ能力の確保ができていない
プロセスの俗人化	プロセスが俗人化しており、標準化・自動化に向けたDX化が進まない

拠点配置戦略に関する課題

拠点配置方針	部署を跨いでグローバル拠点設立プランが複数あり方針が纏まっていない
運営組織	グローバルの運営組織と統制力のあるシステムデザインが定まっていない
サプライチェーン構造	関税やリードタイムを踏まえた戦略的な供給ネットワークへの転換が必要

目指すべきゴール



グローバル戦略の確立と最適リソースの確保

定量的な根拠に基づく最適拠点配置の確定

中長期機永覚に沿った拠点キャパシティの確保

国外拠点運営方針の決定



短リードタイムを実現する物流構造の確立

最適マテリアルフローの確立

国内外物流リソースの再配置



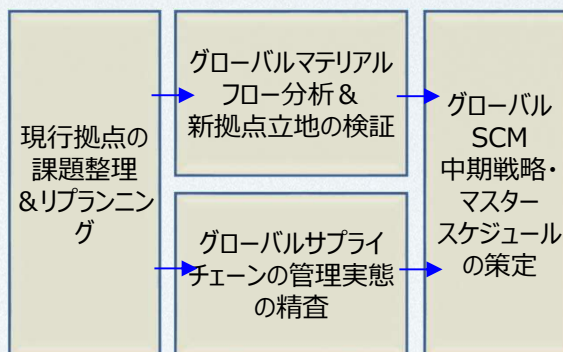
物流管理レベルの高度化・標準化

国外の物流管理レベルを国内レベルまで引き上げ

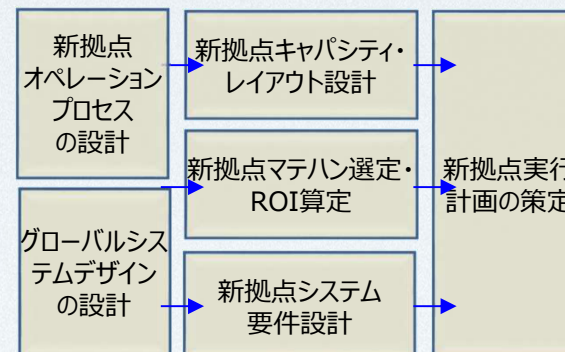
グローバル標準の物流管理スキームの構築

グローバルサプライチェーン改革プロジェクトのステップ

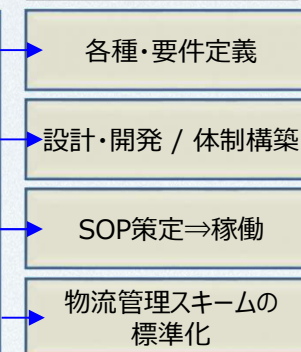
戦略アプローチ・意思決定



プロジェクト計画・構想設計



実行・業務標準化



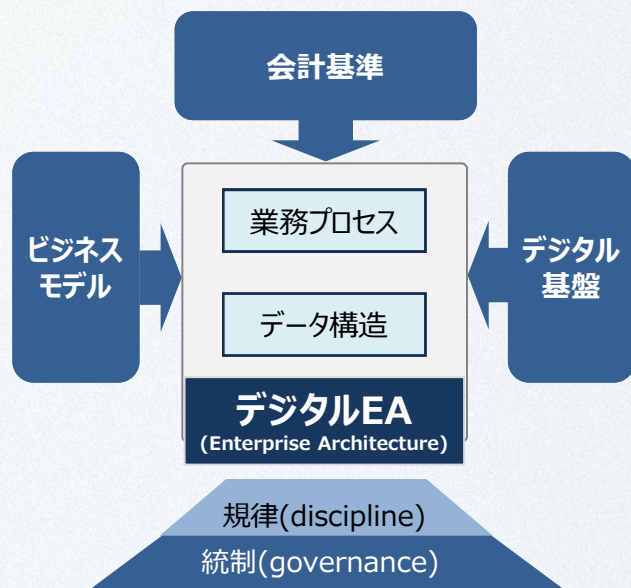
[illegible]

ビジネス戦略とIT戦略を整合させ、業務プロセス、データ、アプリケーション、テクノロジーを共通の設計図として、デジタルEA（エンタープライズ・アーキテクチャ）の戦略モデルを策定

目指す姿

「ITシステム整備」のみでなく「市場価値創出・変化対応力に適したデジタル基盤構築」を目指して、デジタル変革の中核となるデジタルEAを策定します。

ITシステムに掛かるコスト最小化というよりも、ビジネス効果最大化を志向したデジタル基盤の構築を画策します。

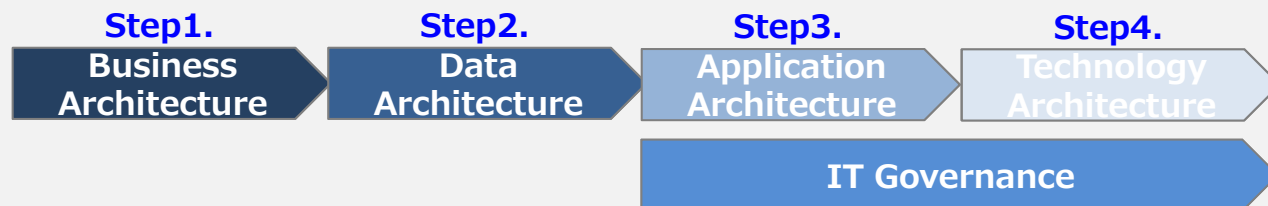


デジタルEAモデル構築に向けたアプローチ

従来のアプローチ

WaterFall型

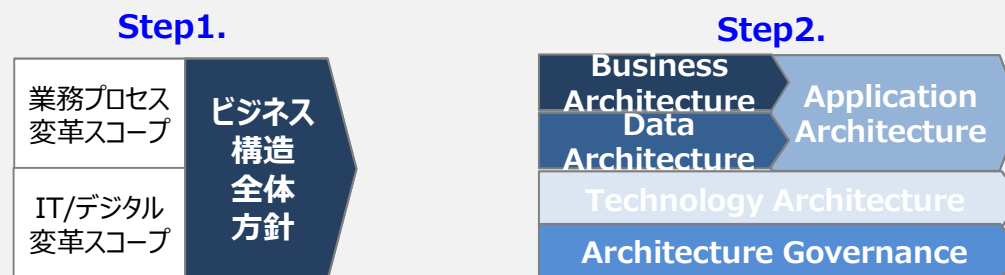
- まずstep1として業務要件を検討したのち、データモデルやアプリ要件を順番に決め、必要なITインフラを定義
- IT部門を中心として、個々のITシステムの設計に注力し、システムのリプレイスが主目的となり、盤石なIT基盤を目指す一方、柔軟性やアジャイルなビジネスモデル変化への適応力が弱いITシステムとなるリスクがある



デジタル・アプローチ

Agile型

- まずstep1として全体方針を策定したのち、将来必要となる機能を想定して、競争優位性やビジネスKFS (KeyFactor for Success)をベースに各アーキテクト構造を定義
- 将来のビジネスの必要性に対応可能な柔軟性と迅速性を実現することを目的として、ITとビジネスを並行検討
- IT部門のみでなく、各業務部門と一緒にクロス・ファンクショナルに個々のITシステムを実現できるための【業務モデル】×【デジタルデータ構造】の構築を目指す

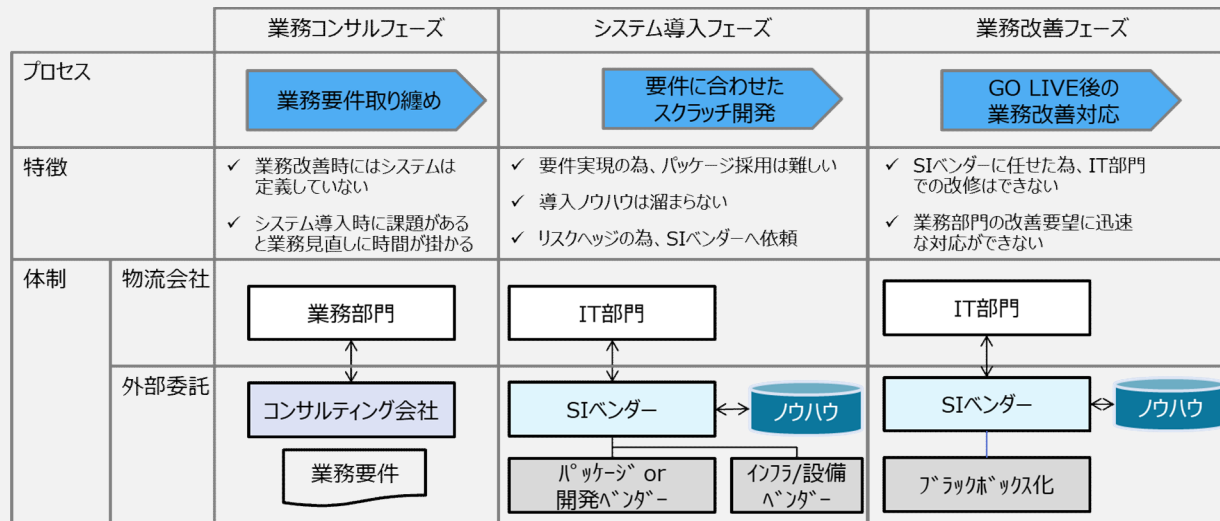


10年経過してもシステム基盤を再構築していない企業では、技術基盤を刷新するタイミングを迎えている
昨今のシステムテーマは、クラウド・DX・AIであり、システム変更は、業務の改革無しでは価値が無い

従来のアプローチ

WaterFall型

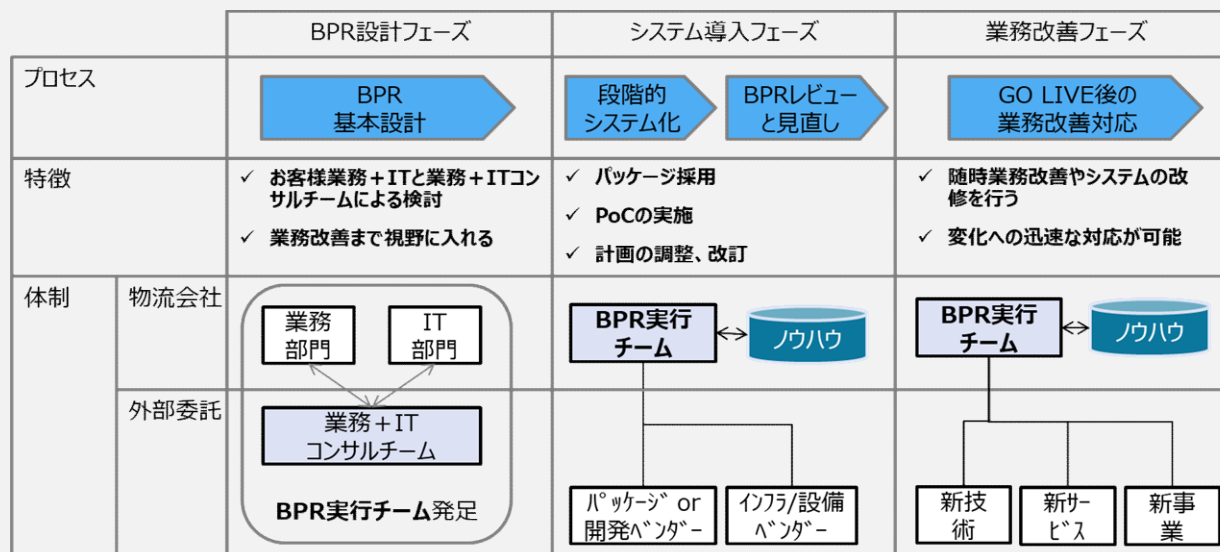
業務部門	業務要件や改善要望を提示
コンサル会社	業務オペレーション改善に特化
IT部門	業務要件の伝達 ノウハウ不足によるリスクヘッジのため、ゼネコン的SIベンダーへ依頼
SIベンダー	IT部門から要請のある業務要件を満たした開発を要求されるためスクラッチ開発



デジタル・アプローチ

Agile型

業務部門	ビジネスモデルの刷新を踏まえたBPR構想を策定
コンサル会社	デジタル基盤をベースとしたBPR要件を、業務部門/IT部門との協働検討を推進
IT部門	BPR後の改善要件は、内製化することで即時対応を実現
SIベンダー	オンプレ開発でなく、パッケージをベースとした機能パラメータ設定でセット



THANK YOU

FOR YOUR ATTENTION



CONTACT INFORMATION:



+03-6263-0375



info@logicross.com



<http://www.logicross.com/>



G・M-3 Building 5F, 3-9-6
Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo

